

温泉分析書

1. 申請者 住所 福島県耶麻郡猪苗代町字大道南1640の6
氏名 静楓亭
2. 源泉名及び湧出地 源泉名 磐梯山麓温泉
湧出地 福島県耶麻郡猪苗代町字大道南1640の1、源泉にて採水
3. 湧出地における調査及び試験成績
(1) 調査及び試験者 分析機関の名称 一般社団法人 福島県薬剤師会 氏名 後藤 幸永
(2) 調査及び試験年月日 平成27年 6月 1日
(3) 泉 温 51.1℃ (調査時における気温 27℃)
(4) 湧 出 量 482 l/min (動力揚湯)
(5) 知覚的試験 弱黄色・微混濁・無臭・弱塩味・赤褐色沈積物・ガス発生あり(可燃性天然ガス濃度確認済み)
(6) pH 値 6.7
(7) 電気伝導率 0.726 S/m(25℃)
4. 試験室における試験成績
(1) 試験者 分析機関の名称 一般社団法人 福島県薬剤師会 氏名 渡邊 智子 菅井 正子 後藤 幸永
(2) 分析終了年月日 平成27年 6月25日
(3) 知覚的試験 弱黄色・澄明・無臭・弱塩味・赤褐色沈積物(採水後72時間)
(4) 密度 1.002 (20℃/4℃)
(5) pH 値 6.82
(6) 蒸発残留物 4198 mg/kg (130℃)
5. 試料 1kg 中の成分、分量及び組成

(1) 陽イオン				(2) 陰イオン			
成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)	成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
リチウムイオン (Li ⁺)	1.0	0.14	0.19	ふっ化物イオン (F ⁻)	0.4	0.02	0.03
ナトリウムイオン (Na ⁺)	1285	55.89	75.51	塩化物イオン (Cl ⁻)	1652	46.60	64.46
カリウムイオン (K ⁺)	58.6	1.50	2.03	臭化物イオン (Br ⁻)	2.8	0.04	0.06
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	95.9	7.89	10.66	よう化物イオン (I ⁻)	0.7	0.01	0.01
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	171.2	8.54	11.54	硫化水素イオン (HS ⁻)	0.0	0.00	0.00
アルミニウムイオン (Al ³⁺)	0.0	0.00	0.00	チオ硫酸イオン (S ₂ O ₃ ²⁻)	0.0	0.00	0.00
マンガンイオン (Mn ²⁺)	0.1	0.00	0.00	硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	24.7	0.51	0.71
鉄(II)イオン (Fe ²⁺)	1.7	0.06	0.08	炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	1532	25.11	34.74
				炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	0.0	0.00	0.00
陽イオン 計	1614	74.02	100	陰イオン 計	3213	72.29	100

(3) 遊離成分			② 溶存ガス成分		
成 分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)	成 分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)
メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	144.5	1.85	遊離二酸化炭素 (CO ₂)	362.3	8.23
メタほう酸 (HBO ₃)	33.2	0.76	遊離硫化水素 (H ₂ S)	0.0	0.00
非解離成分 計	177.7	2.61	溶存ガス成分 計	362.3	8.23
溶存物質 (ガス性のものを除く)	5.004	g/kg			
成分総計	5.366	g/kg			

(4) その他の微量成分			
成 分	ミリグラム(mg)	成 分	ミリグラム(mg)
総ひ素 (As)	0.018	総水銀 (Hg)	0.0005未満
銅イオン (Cu ²⁺)	0.01		
鉛イオン (Pb ²⁺)	0.005未満		

6. 泉質 ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩温泉
(旧泉質名 含重曹-食塩温泉) [揭示用泉質名 塩化物泉]
(低張性-中性-高温泉)

平成27年 6月25日
登録分析機関の名称 一般社団法人 福島県薬剤師会
登録番号 福島第1号
所在地 福島市蓬萊町2丁目2番2号
代表者の氏名 会長 町野 紳

温泉分析書別表(浴用)

1. 源泉名 磐梯山麓温泉
2. 湧出地 福島県耶麻郡猪苗代町字大道南1640の1
3. 温泉分析申請者 静楓亭
4. 泉質名 塩化物泉
5. 分析結果による療養泉分類に基づく禁忌症、適応症等は環境省自然環境局長通知(平成26年7月1日)環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

禁忌症	一般的禁忌症(浴用)	泉質別禁忌症(浴用)
	病気の活動期(特に熱のあるとき)、 活動性の結核、 進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、 少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、 むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、 目に見える出血があるとき、 慢性的病気の急性増悪期	
適応症	一般的適応症(浴用)	泉質別適応症(浴用)
	筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、 腰痛症、神経症、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、 運動麻痺における筋肉のこわばり、 胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、 軽症高血圧、 耐糖能異常(糖尿病)、 軽い高コレステロール血症、 軽い喘息又は肺気腫、 痔の痛み、 自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害など)、 病後回復期、 疲労回復、健康増進	きりきざず、 末梢循環障害、冷え性、 うつ状態、 皮膚乾燥症

- 浴用の方法及び注意
温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。
- ア. 入浴前の注意
(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。
(ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。
(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。
- イ. 入浴方法
(ア) 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
(イ) 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
(ウ) 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。
(エ) 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。
- ウ. 入浴中の注意
(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
- エ. 入浴後の注意
(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)
(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
- オ. 湯あたり
温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。
- カ. その他
浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

この別表は、温泉法第18条による揭示に必要な参考資料となるものである。